

平成 30 年夏季ボーナスアンケート調査

今夏のボーナス予想支給額は、2 年ぶりに悪化（プラス幅が縮小）

～ 「上回る」割合が「下回る」割合は超える～

平成 30 年夏季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを、官公庁・民間企業等に勤務する給与所得者世帯を対象にアンケート調査を行いました。

【ポイント】

ボーナス支給額の増減予想（昨年夏比）

全体（官公庁・民間企業等）では、「上回る」が 12.3%、「下回る」が 11.2%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は 1.1（昨年夏 3.8）と、2 年連続でプラスとなった。民間企業では、製造業、非製造業ともに悪化した（製造業：昨年夏 4.0→今年夏▲3.4、非製造業：同▲1.4→同▲3.5）。また、年代別にみると、50 代以上では改善となったが、40 代以下では悪化となった。

ボーナス予想支給額

『40 万円未満』が全体の約 2/3 を占めた。また、『60 万円以上』（「60～80 万円未満」、「80～100 万円未満」、「100 万円以上」の合計）はわずかに減少した。

ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が継続している。昨年夏と比べ「預貯金」、「学費」が増加した一方で、「生活費補てん」、「住宅補修・改築」の割合が減少した。

ボーナスを貯蓄する目的

首位は「老後の生活への備え」、続いて「特に目的はないが安心だから」となった。また、昨年夏比では「老後の生活への備え」が最も減少した一方で、「特に目的はないが安心だから」が最も増加した。

ボーナスの運用方法

「銀行普通預金」が 70.6%と最多であり、続いて「銀行定期預金」となった。また、「投資信託」が最も増加し、積極的に資産運用を行う姿勢がうかがえる。

【調査要領】

1. 期 間 平成 30 年 6 月 1 日～6 月 14 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法 山陰合同銀行本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,430 枚）、返信用封筒により回収
4. 回 答 数 有効回答数 673 枚（回収率 27.7%）
（県別内訳：鳥取県 294 枚、島根県 376 枚、不明 3 枚）

設問1. 今年の夏のボーナス支給額は昨年の夏に比べてどうなると予想されますか？

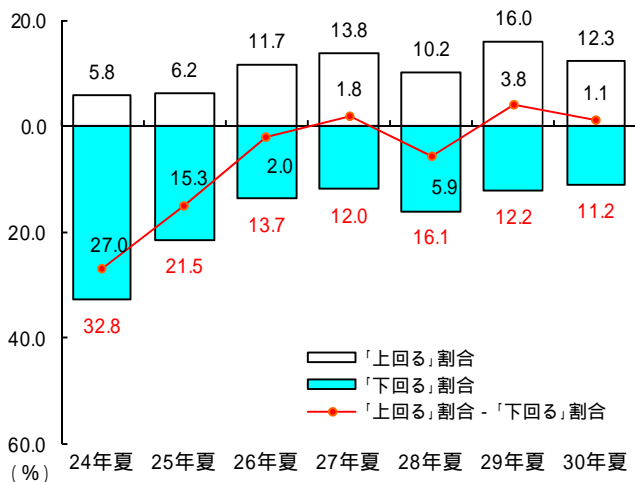
～「上回る」割合が「下回る」割合は超える～

全体

今年の夏のボーナス支給額について、昨年夏と比較して「上回る」と予想する世帯割合は、全体で12.3%（昨年夏比3.7ポイント減）、「下回る」は11.2%（同1.0ポイント減）、「同じくらい」は76.5%（同4.7ポイント増）となりました。

「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は1.1と2年連続でプラスとなりました（昨年夏比では2.7ポイント悪化）。

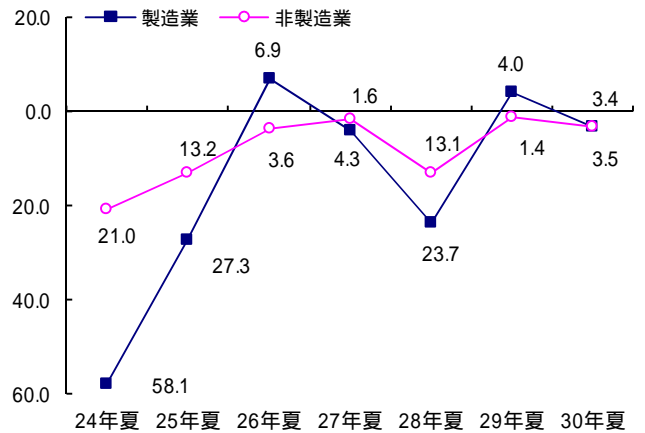
図示していませんが、県別にみると、鳥取県は▲0.4（同5.9ポイント悪化）、島根県は2.4（同0.9ポイント悪化）となりました。



※上記割合は「支給なし」を控除して算出している。
「支給なし」を算入した場合、「支給なし」は全体の9.7%となる（昨年夏11.5%）。

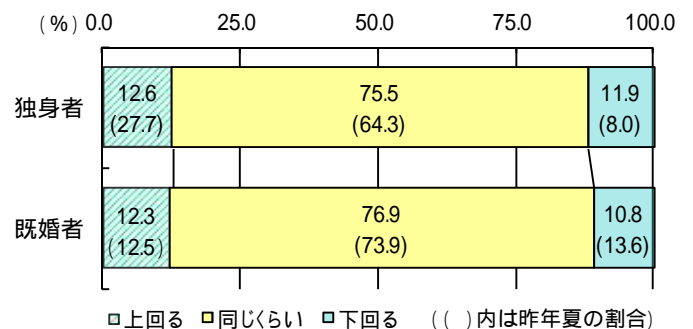
製造業・非製造業別

全体のうち民間企業に勤務する世帯（官公庁等を除く）について、製造業・非製造業別に「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値の推移をみると、製造業は2年ぶりにマイナスに転じ（昨年夏4.0→今年夏▲3.4）、非製造業は2年ぶりに悪化しました（同▲1.4→同▲3.5）。



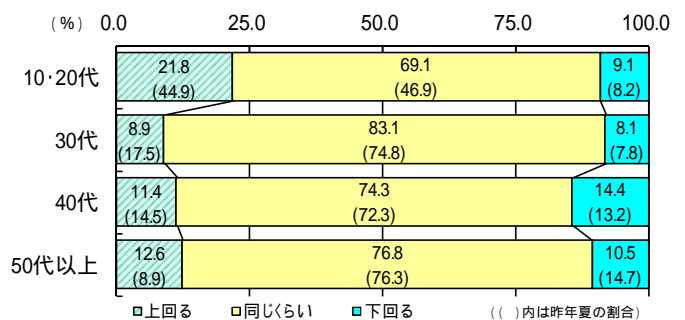
独身者・既婚者別

昨年夏と比べると、「上回る」では独身者で15.1ポイント、既婚者は0.2ポイント、それぞれ減少し、「下回る」では独身者で3.9ポイント増加、既婚者は2.8ポイント減少となりました。



年代別

年代別にみると、50代以上では昨年夏と比べ改善を見込んでおり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値がプラスに転じました（昨年夏▲5.8→今年夏2.1）。また、40代以下では、「上回る」の割合が減少した一方で、「下回る」の割合が増加し、昨年夏より悪化しました。



四捨五入の関係で合計が100%とならない場合がある、以下同じ。

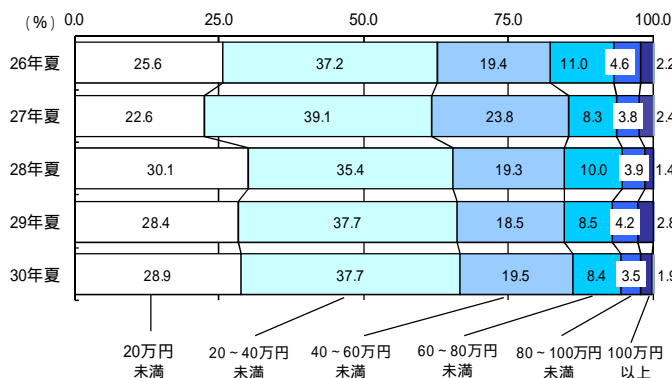
設問2 . 今年の夏のボーナス支給額(税込)は、どのくらいになると予想されますか？

～ 『40万円未満』が全体の約2/3を占める～

全体

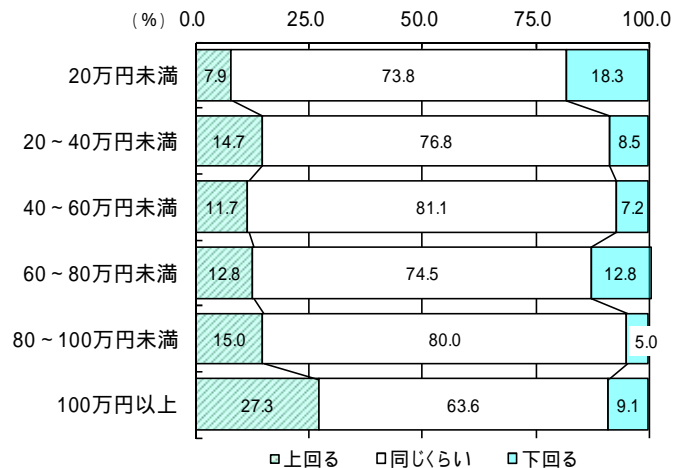
今年の夏のボーナス予想支給額をたずねたところ、最も多いのは「20～40万円未満(37.7%、昨年夏比横ばい)」となり、以下、「20万円未満(28.9%、同0.5ポイント増)」、「40～60万円未満(19.5%、同1.0ポイント増)」と続きました。『40万円未満』(「20万円未満」、「20～40万円未満」の合計)は全体の約2/3(66.6%)を占めています。

また、『60万円以上』(「60～80万円未満」、「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計)についてみると、今年夏は13.8%(同1.7ポイント減)とわずかに減少しています。



支給額区分別増減予想の割合

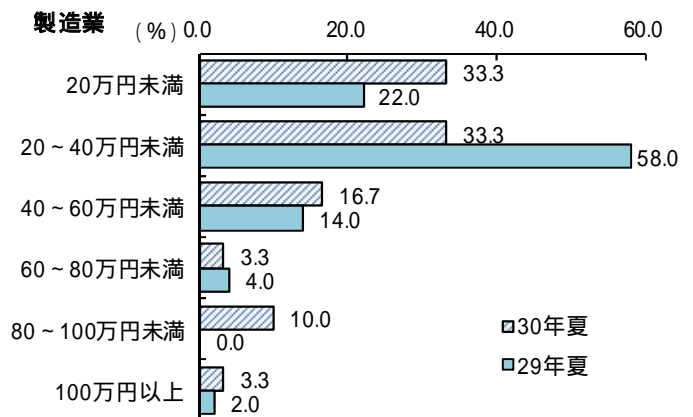
支給額区分別に、増減予想(設問1の回答)の割合をみると、「上回る」割合が最も高い金額区分は、「100万円以上(27.3%)」で、次いで「80～100万円未満(15.0%)」となっています。一方、「下回る」割合が最も高い金額区分は「20万円未満(18.3%)」で、以下、「60～80万円未満(12.8%)」、「100万円以上(9.1%)」となっています。



製造業・非製造業別

製造業・非製造業別にみると、昨年夏と比べ、製造業では「20万円未満(33.3%、昨年夏比11.3ポイント増)」が最も増加し、「20～40万円未満(33.3%、同24.7ポイント減)」が最も減少しました。

非製造業では、「20～40万円未満(38.3%、昨年夏比2.1ポイント増)」が最も増加し、「100万円以上(2.2%、同2.0ポイント減)」が最も減少しました。



設問3．今年の夏のボーナスはどのようにお使いになりますか？

～首位は「預貯金」で堅実な姿勢が継続～

全体

ボーナスの使い道について合計 100%の配分比率でたずねたところ、上位3項目の順位は「預貯金(45.3%)」、「生活費補てん(16.7%)」、「借入金返済(11.5%)」と、例年通りの結果となりました。

昨年夏と比べると、最も増加した項目は「預貯金(4.2ポイント増)」となり、続いて「学費(0.9ポイント増)」となりました。一方、最も減少した項目は「生活費補てん(2.0ポイント減)」となり、続いて「住宅補修・改築(1.3ポイント減)」となりました。

独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、いずれも「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年夏に比べ最も増加した項目は、独身者、既婚者ともに「預貯金(独身者：52.5%、昨年夏比3.8ポ

イント増、既婚者：42.6%、同3.9ポイント増)」となり、最も減少した項目は、独身者で「借入金返済(8.7%、同1.9ポイント減)」、既婚者は「生活費補てん(18.1%、同2.9ポイント減)」となっています。

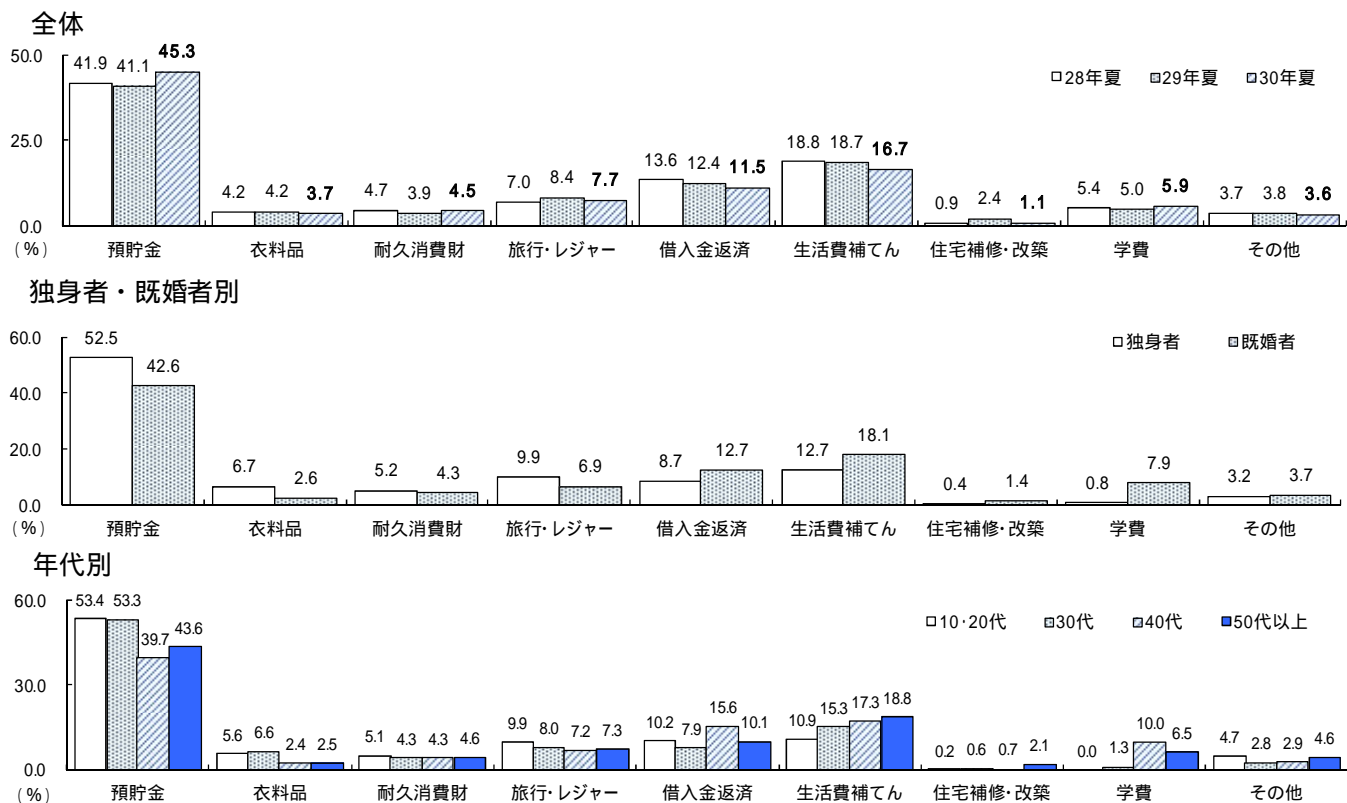
年代別

年代別にみると、すべての年代で「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年夏に比べ最も増加した項目は、10・20代、30代、50代以上は「預貯金(10・20代：4.1ポイント増、30代：8.0ポイント増、50代以上：8.1ポイント増)」、40代は「借入金返済(5.0ポイント増)」となりました。一方、最も減少した項目は、10・20代は「衣料品(4.4ポイント減)」、30代、50代以上は「借入金返済(30代：6.0ポイント減、50代以上：3.7ポイント減)」、40代は「生活費補てん(3.5ポイント減)」となりました。

40代を除く全年代で、昨年夏に比べ「預貯金」が大きく増加しており、貯蓄を重視する姿勢がうかがえます。

「その他」の回答として「保険料」、「車検費用」等がありました。



設問4 . ボーナスを貯蓄（投資）する主な目的は何ですか？（3つまで）

～「老後の生活への備え」が最多、

将来への備えを重視する傾向が続く～

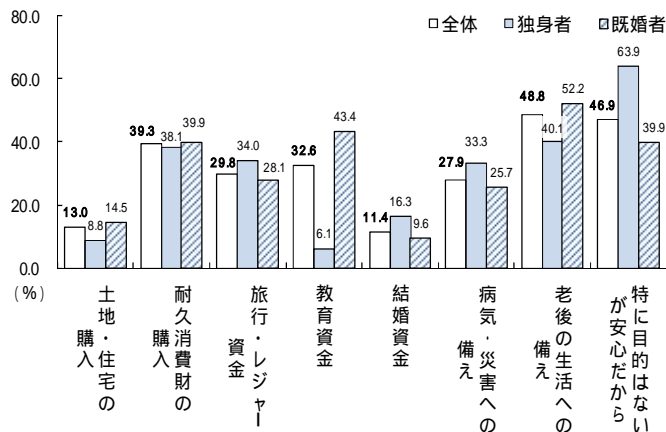
ボーナスを貯蓄（投資）する場合の主な目的（3つまで）をたずねたところ、割合の多い順に「老後の生活への備え（48.8%）」、「特に目的はないが安心だから（46.9%）」、「耐久消費財の購入（39.3%）」、「教育資金（32.6%）」、「旅行・レジャー資金（29.8%）」などとなりました。

上位5項目の昨年夏との比較では、順位に変動はないものの、最も増加した項目が「特に目的はないが安心だから（5.6ポイント増）」、最も減少した項目が「老後の生活への備え（5.6ポイント減）」となりました。貯蓄に対する目的意識は低下したものの、依然として将来への備えを重視する傾向にあることがうかがえます。

独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者が「特に目的はないが安心だから（63.9%）」、既婚者が「老後の生活への備え（52.2%）」となりました。2位以下の項目をみると、独身者では「老後の生活への備え（40.1%）」、「耐久消費財の購入（38.1%）」の順となっています。一方、既婚者では「教育資金（43.4%）」、「耐久消費財の購入（39.9%）」、「特に目的はないが安心だから（〃）」の順となっています。

年代別に最も高い割合をみると、10・20代、30代では「特に目的はないが安心だから（10・20代：75.5%、30代：51.3%）」、40代では「教育資金（54.4%）」、50代以上では「老後の生活への備え（69.5%）」となっています。年代別で最も増加した項目は10・20代、30代では「特に目的はないが安心だから（10・20代：18.4ポイント増、30代：10.2ポイント増）」、40代、50代以上では「耐久消費財の購入（40代：9.2ポイント増、50代以上：6.6ポイント増）」となりました。

全体及び独身者・既婚者別

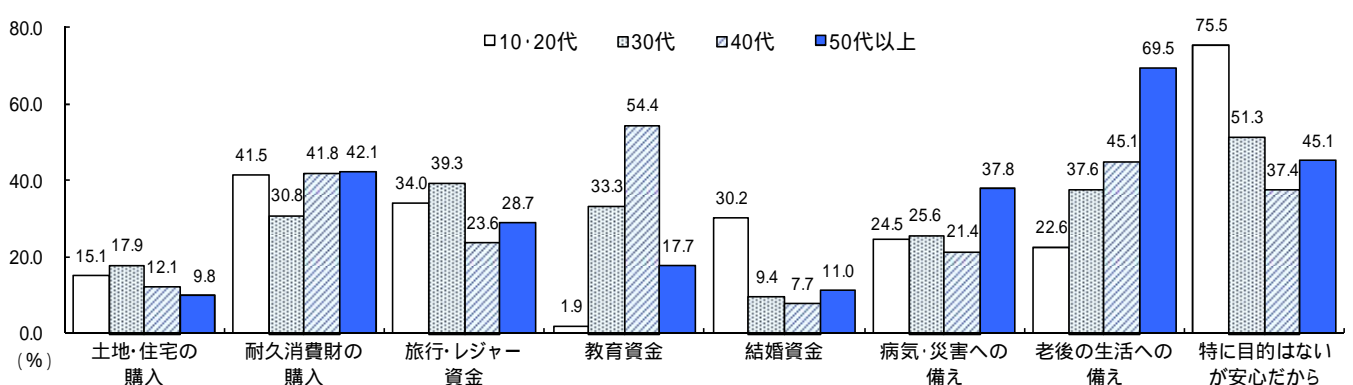


〔上位5項目〕

(単位: %)

順位	項目	29年夏		30年夏	
		割合 (%)	ポイント増減	割合 (%)	ポイント増減
1位	老後の生活への備え	54.4	-5.6	48.8	-5.6
2位	特に目的はないが安心だから	41.3	+5.6	46.9	+5.6
3位	耐久消費財の購入	36.1	+3.2	39.3	+3.2
4位	教育資金	33.6	+0.8	32.6	-1.0
5位	旅行・レジャー資金	32.1	+2.3	29.8	-2.3

年代別



設問5 . 夏のボーナスを貯蓄（投資）される場合 どんな方法でされますか？（複数回答）

～「銀行普通預金」が約2/3と最多、

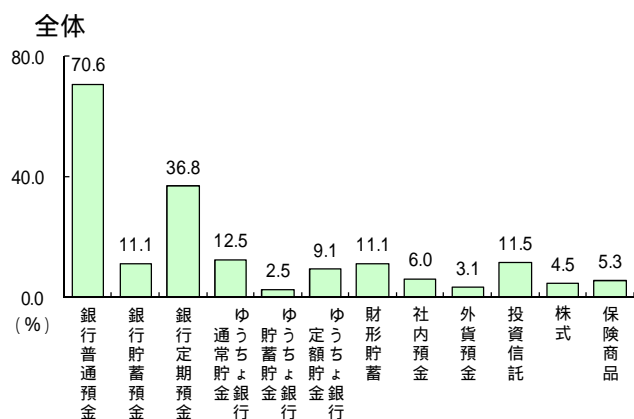
「投資信託」が最も増加～

ボーナスの運用方法（複数回答）をたずねたところ、最も多かった回答は「銀行普通預金（70.6%）」であり、以下、「銀行定期預金（36.8%）」、「ゆうちょ銀行通常貯金（12.5%）」、「投資信託（11.5%）」、「銀行貯蓄預金（11.1%）」、「財形貯蓄（〃）」と続きました。

昨年夏と比べた順位では、「ゆうちょ銀行通常貯金（5位→3位）」、「投資信託（6位→4位）」が順位を上げました。特に「投資信託」については、昨年夏比3.9ポイント増と、最も増加しました。

また、「投資信託」以外のリスク性商品については、「保険商品（昨年夏3.9%→今年夏5.3%）」は増加し、「株式（昨年夏4.6%→今年夏4.5%）」、「外貨預金（昨年夏3.2%→今年夏3.1%）」はほぼ横ばいとなりました。総じてみると、昨年夏よりも積極的に資産運用を行う傾向がみられます。背景として、海外経済の先行き不透明感はあるものの、市場動向が比較的落ち着いていることなどが影響していると考えられます。

予想支給額（金額階層3区分）別にみると、最も回答割合の高い商品は『40万円未満』、『40万円以上80万円未満』、『80万円以上』のいずれの層も「銀行普通預金」となっています。また、『80万円以上』では、「投資信託」などのリスク性商品の回答割合が他と比べ高くなっており、積極的に資産運用を行う傾向がうかがえます。



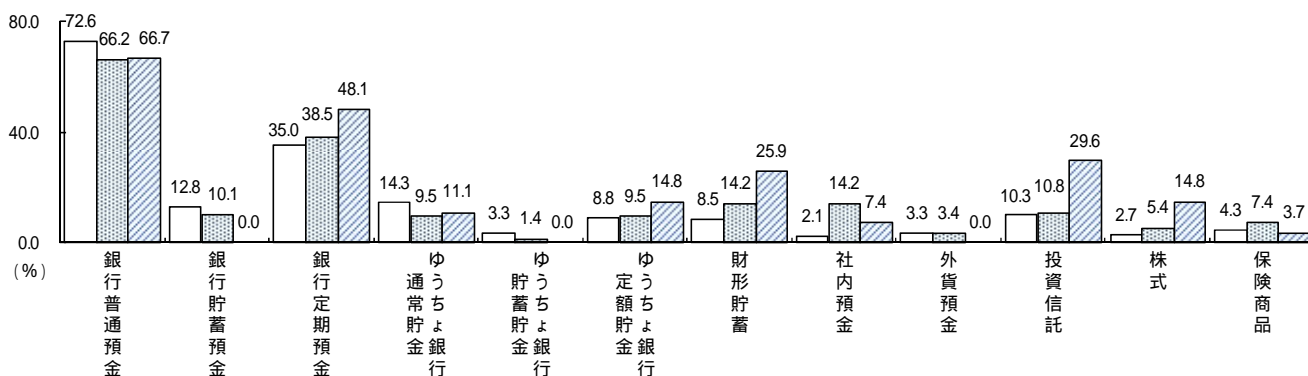
(注) 上記以外「その他(0.8%)」、「外国債券(0.6%)」、「貸付・金銭信託(0.6%)」、「公社債(国債等)(0.4%)」

(上位5項目)

(単位: %)

	29年夏		30年夏	
	順位	割合 (%)	順位	割合 (%)
1位	銀行普通預金	66.9	銀行普通預金	70.6
2位	銀行定期預金	39.5	銀行定期預金	36.8
3位	財形貯蓄	13.1	ゆうちょ銀行通常貯金	12.5
4位	銀行貯蓄預金	12.2	投資信託	11.5
5位	ゆうちょ銀行通常貯金	12.0	銀行貯蓄預金	11.1
			財形貯蓄	11.1

予想支給額別 (金額階層3区分 □40万円未満 □40～80万円未満 □80万円以上)



無断転載を禁ずる